

第13回 図書館建設運営委員会

日時 平成21年1月9日(金) 18:30～20:30
場所 公民館 講堂
出席者 専門部会委員 9名 聴講者 1名
ナスカ一級建築士事務所 八木氏、杉下氏
市川教育長、富岡参事、花井館長
事務局 2名
職員プロジェクトチーム 7名

議事録

1. 開会
2. あいさつ
3. 事務局からの報告

(事務局) 電算化についてですが、現在、データ入力作業の前準備として本のクリーニング作業や、本の目録カード差し込み作業等を行っています。こちらにつきましてはおたくさんの町民の皆さんに携わっていただき、作業を進めています。この作業が終わり次第、データ入力作業に入っていきます。

もう一点、寄贈本についてですが、町報でもお伝えしているとおり、現在5件の寄贈をいただいています。寄贈のご連絡をいただき次第、ご自宅にお伺いし、本の状況等を見せていただいております。今後も随時受け付けていきたいと考えております。事務局からのご報告は以上です。

4. 工事進捗状況の報告(ナスカ一級建築士事務所)

(委員長) それでは工事の進捗状況の報告に移ります。ナスカさん、今日は八木さんと杉下さんにお見えいただいております。よろしく願いいたします。

(八木) 皆さんこんばんは。明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

工事のほうは昨年に引き続きまして、着々と現場は進んでおります。暮れに、12月29日という大変に押し迫ったころですが、この建物にとっては最後のコンクリート打ちをいたしました。普通でしたら、屋根までコンクリートだったりしましたら、立ちあがったところまでコンクリート工事をやりますが、この建物は1階のスラブまでがコンクリートできていて、ここから上が鉄骨になります。ですので、1階のスラブまでが、工事を完了いたしました。今年はどうも雪が多いらしいということで、北野建設さんが無理をしてでも年内に絶

対にコンクリートの工事は終わらせたいというすごい意気込みでしたので、段取りどおりに最後29日、きっちりコンクリートを打ってお正月休みに入って、明けたところです。

今後の予定としては、次に鉄骨の立て方といいですか、柱とか梁が現場に運ばれて、組立作業するんですが、それが2月の半ば過ぎになります。ということは今から1ヶ月半ぐらいは工事は意外と閑散として、なんだか工事が止まってしまったんじゃないかと心配する人がいるといけないので、これは工場の方で今、鉄骨の製作をしている最中なのでご安心下さいと、誰か心配する人がいたら是非、言ってください。そして、鉄骨の建て方で、2月の半ば、末ぐらいに最初の柱・梁が運ばれてきて、それを組み立てするのにまた1ヶ月ぐらいかかりますが、そうすると漸く大きさとか、屋根の高さとか、全貌がわかります。全体の大きさがわかるのは3月ぐらいですね。最後は残り3ヶ月ぐらいで、内装工事などをするという、そういう状態にあります。

今日実は、現場監督さんたちを、顔ぐらいちゃんと皆さんに知っていただきたいと思って呼びしています。ご紹介だけして退席されるということでしたので、町で会ったら、この人監督さんだと、是非励まして欲しいんです。なにしろ、あの形、あの屋根を造るのに日夜、夜中まで計算尽くめで、大変な思いをされているので、是非、応援してください。

(委員長) 今、八木さんの報告については何かありますでしょうか？

(委員) 今の内容に触れる事ではないんですが、ブログやっていますよね？町のホームページから見られますよね。

(館長) そうですね。

(委員) そこにはかなり最近の写真が掲載されていたので、そちらもご紹介されたらいいんじゃないんですか？

(館長) ああ、「わくわく通信」に載っています。

(委員) 12月の末のころまで最新情報が載っていましたね。

(八木) ああ、雪を掻き分けている…。

(委員) リアルタイムではないけれど、最後のまで載っているじゃないですか。今後、1月のも入っていますね？

(館長) そうですね、1月明けてすぐのものは入っています。

(八木) ブログはどのくらいの頻度でアップしているんですか？

(館長) 不定期で、変化があれば。

(委員) いわゆるブログ。

(委員長) では、その話はまたあとで…。

(八木) 今お話ししました現場の監督さんたちがいらしたのでご紹介します。

まず、建築工事を請け負ってくださっている北野・黒崎・小布施建設の共同企

業体の3社でJV組んでいます。その中の所長さん。北野建設の山口所長さんです。

(山口) お世話になっています。ご苦労様です。北野建設の山口と申します。よろしくお願いたします。

現場は、昨年11月から実質、工事着手しまして、昨年うちにコンクリート基礎工事を終了しました。現在年明け、埋め戻しを今後やっていきまして来月の上旬に鉄骨の立て方を予定しているのですが、それに向けての準備期間中という状況です。1月はあまり工事、現場のほうは大きな動きがないのですが、鉄骨の、非常に難しい形状をした建物で、特に見せ所の屋根の形状がですね、模型の形に近づけるといいますか、近づけるべく、今盛んに設計さんと打ち合わせを重ねております。非常に難しく、なかなか進まない打ち合わせ、今そういう中で来月の立て方に向けて準備を進めていると、そういう状況でございます。以上でございます。よろしくお願いたします。

(八木) この建物は建築と、電気設備というものと、空調とか衛生の機械設備という設備工事が3本立てで分離発注になっています。次は機械設備を担当して下さっている信東産業の中島さんです。

(中島) こんにちは。信東産業の中島と申します。今回この小布施の図書館の空調部と給排気の工事を担当させていただいております。工事自体は今のところ建築さんの工程に合わせて配管の曳航をやっているところですが、今後、立てかた終わった頃から機械のほうに入っていきたいと思っております。まだエンジン全開というわけではないんですが、これから忙しくなると思っていますのでよろしくお願いたします。

(八木) 最後に電気設備を担当している東日本システム建設の藤原所長さんです。今回電気は例えば、図書館のシステムとか、役場と繋がってる電話ですとか、そういったものの、各系の繋がり物もいろいろありまして、そういった釣り合いのところで発揮されています。

(藤原) はじめまして。東日本システム建設の藤原と申します。電気設備を担当しております。建築さんの工程に沿って遅れないように追いつこうとしてやっている状態です。電気設備としても、去年インターネット等で拝見しましたところ、『4つの場』ということで拝見しました。その『4つの場』づくりに少しでもお役に立ちたいということで、精一杯努力いたしますので、よろしくお願いたします。

(八木) どうもありがとうございました。私たちは3JVと、発注者である町教育委員会と、それと設計者で毎週金曜日の午後、定例会議を持って打ち合わせをやっています。そんな訳で大体金曜日は合わせて来ておりますので、何かあったら、また現場のほうも見学というのも可能ですので、訪ねてみてください。で

は、よろしくお願いいたします。

(業 者) よろしく願いいたします。

(館 長) 先ほどのブログの件ですけれども、町のホームページから図書館のページを見ることができまして、もう一つそこに新しいリンクとして加わった工事の進捗状況をお伝えする ”Obuse Library” というブログを「わくわく通信」の中にご紹介させていただいております。そこにはできるだけ定点観測をした写真を載せ、僕も工事専門用語がなかなか難しくてわからない部分があるんですが、それをわかりやすく、どのように今進んでいるのかなということを日々皆さんに見ていただこうと思ってやっております。

(委員長) こちらを是非ご覧いただいて、皆さん日々、確認してもらえればと思います。

5. 会議事項

(1) 運営について

(事務局) 続きまして5番の会議事項(1)運営について、に入ります。

(委員長) はい。まず最初に家具の配置についてこれを八木さんに説明していただきながら、模型もありますので、それを見ながら話を進めたいと思います。申し遅れましたが、今日の全体会は6時半から始めたんですが、8時半には、2時間以内で切り上げるということで皆さんご協力お願いいたします。もし項目全部が議論尽くせなかった場合は次回に送るということで、よろしくお願いいたします。

(八 木) そうしましたら、こちらに集まっていただいて…。

前回、この家具の配置の中で真ん中のところを、書棚をどちらに向けるんだということが話題になりました。それで、いつまでもどちらでも向けられますと言ってもいられないので、皆でイメージを共有したいなと思いついて、こういう本を貼り付けたような模型を作ってきました。例えばこの人形は175センチの少々高めの人が立っていますが、いつも上から見ていることが多いので、実際の目線で見たいと思って、この高さまで持ち上げてあります。ここに置いてあるのが、当初の、私たちが考えている本棚の配置です。それを反転した模型もここに持って来しました。上下重ねたほうがわかりますか？2階建てではないんですけれども、ここに右向いたものと左向いたものを置いてみますので、皆さんのご意見も伺いたいです。そうは言ってもここに置いてある本棚で私たちは推奨しているので、もう一度、どうしてこちらを向いていたのかということはおさらいしようと思います。大きく言って3つあります。

ひとつは、エントランスから入ってきた時に、これ三角だから確かにグリッドを組めないで、どうするかという問題があります。三角って本棚がずれて配置されているんですね。だから本棚の小口が耳をびたつと揃っていない。

ちょっとずつ本がずれて顔を出している、ずれていけるという、この良さを活かそうと。それを多目的室とコンシェルジュカウンターと多目的カウンターとか、ここが私たち大通りだと思っていますけれども、この大通りを歩きながら本棚が顔を出しているのです、どこの枝道に入って、小道というか、見ながら歩ける。というので、サインなどがついていないので、それはひとつ工夫しなければいけないと思うんですが、なにしろ、本の顔を見ながら大通りを樹木のほうに歩いていく、というのがひとつかと思っています。

もうひとつはこの大通りを歩きながら、右の方を見ますと、一直線にずっとグランドの方まで小学校のプールの方まで通りが抜けて見えますので、こちらに人がたくさんいるとすると、多くの人目が隅々まで行き届くであろうと。三角で隅っこの方が見にくいんじゃないかというのは、こちら辺の大通りに人がいるということを想定すると、見通しはきくであろうと。

もうひとつはこの三角の頂点のところ。わざとちょっと家具を抜いています。それはこのエントランスのところに少し広がりを持たせる為です。今は仮にソファとか置いていますけれども、それは動かせる椅子ですし、それを、これ本当はソファがいいのか、やっぱりここに別の、それこそ新刊等どこに置くんかというような議論になってないんですけども、新刊を置くようなコーナーを例えばここにするとか、エントランスのところに広がりを持たせる為には、不思議なんですけれども、反対を向けるとここに角が来てしまいます。すると、意外にこのエントランスが狭くなってしまふ。今、そういう意味でこちらを向けております。暮れにこちらを向いていてもいいけれども、大通りに対していきなり小通りじゃなくて中通りを、1本、2本ぐらい開けてくれないかという話がありました。これはやれないということではなくて、この模型を作るのにかなり徹夜をしたりしまして、3つめが追いつかなかったというのが言い訳がましいんですけども、現状であります。申し訳ありません。

もうひとつの、反転するとどうなるかということですが、反転しますとこの大通りに対して、平行に本棚があります。正直これだと少し壁のようにどんどん立ってしまうので、大通りから向こう側が見通せなくなります。ここを私たちは懸念しております。これで大通りに対して中通りをこっちに通せばいいんじゃないかと、そういうことも考えられるんじゃないかと思えますけれども、通りというよりは、本棚、まっすぐ見通せるこの、一番の小通りをどっちに向けるかという事になるんでしょうね。ですので、それがどちらがいいかということとは皆、ぐるぐると周りを自由に動きながらちょっとご検討いただきまして…。一旦ぐるっと見ていただいたら、上と下をひっくり返して…。

(杉 下) 多分もっと近づいて、こうやって覗いた方が雰囲気はわかります。

(八 木) ここにぎゅうっと顔を近づけると、なんか自分が小人になって中に入った感

じに見えるので…。

．．．

(皆さん模型観察中・意見交換)

．．．

(委員長) それでは席に戻ってください。

ありがとうございました。今、議論の中で皆さんもお気づきになっていると思うんですけども、幾つかのキーワードというか、決定打に繋がるポイントが出てきていると思います。やっぱり一番大事なのは安全性、防犯の問題ですね。次は利用者としての使いやすさの問題。あとは図書館の職員にとっての配架などの管理のし易さの問題。それと、時折出ていましたけれども、イメージがどちらのほう広がるかですが、ソフトの部分の、印象の問題。同様に美しさやかっこよさが出ていました。今順番に、4つなり5つ申しましたけれども、多分、お話を聞いてると、一番目の防犯性・安全性というのが、皆さんにとって共通の関心事ではないかと思えます。続いて利用者の管理のし易さというようなことと言えらると思うんですけども、特に今委員さんもおっしゃっていたんですけども、何よりも防犯性ということをまず考えるという視点が出てきたと思えます。そこからすると、当初案というのが、なんとなく、皆さんの意見として、いいのではないかと。それを踏まえてですね、通路を通すというようなことで、使いやすさとか、管理のし易さなどについてもクリアしていくと。というような思考の段階の順序を踏むということで、皆さんの納得の上でこの家具の配置の問題は解決できるのではないかと私は思ったんですが、皆さんいかがでしょうか？今の議論と言うのは、模型を見ながらとはいえ、空想の世界の話であるかもしれないんですけども、今、花井館長のほうでひとつご提案があります。

(館長) ちょっと、周りを見ていた人と話しながらなんですが、実際こういうような配架をしているところがあるだろうかということで、そういうところがあれば、実際見てみるのも、ひとつの手だろうという意見が出ました。調査、今調べてはみましたが、引き続き調査してまいりたいと思います。また、ひとつの方法として出たのであれば、進めていただいて、皆さまの参考にしていただければいいのかなあと思います。

(八木) いろいろご意見ありがとうございました。方向性はとにかく、向きは当初設計どおりなんだけれども、通路の通し方、それから側面の架のつけ方とか、そこに新刊を展示するのか。そうすると、新刊書がバラバラになるわけですけども、そういう配架がいいのか、それとも新刊コーナーというのを作ったほうがいいのか。その辺はもうちょっと踏み込んで協議していきたいと思うんですけども、その時にまた右か左かってやっていると、いつまでたっても決まらな

いので、ここで向きはこちらということで決めていきたいと思います。そのあとの提案をまたしていきたいと思いますが。

(委員長) ご異議なければ…。

(職員) すいません。向きはこのままでも、通路を通していただけるんですか？

(八木) 申し訳ないけれど、もうちょっと模型を作って、もう一回自分達も確認しながら、やらせてください。ここで通路を取るとかっていう、言質を取られるようなことだと我々でも模型見たり、本当にプラン描いてみないと、正直わからないんですね。まず、通路を通すということをやってみます。そしてそれをまた見て下さい。それで、こういうことでもいいのかって事を。そうすると、通路を通したが為に、欠点も出てくる可能性があるんですね、こういうのって。四角じゃなくて、三角なので。というような所もあって、だけど、この三角を是非生かしたいので、それでうまくできる配架をまた提案します。ですので、また皆さんに見てもらいたいなど。

(委員長) この決定というのは、大体いつまでにすればいいんですか？

(八木) 向きさえ決まれば、設備とかはもうできますので、今度は家具を発注するまでなので、もう、それこそ北野建設さんに怒られちゃうけど、もう2ヶ月くらいはやっても大丈夫です。

(委員長) 通常、全体会は1ヶ月に一度あるので、2月、3月、その3月くらいの、年度内に決める感じで、次回までに図書館を前提にした通路の通し方、先程の安全性をクリアした上での通路の通し方、諸々の使いやすさ、というような事を提案頂くという事で、議論進めていいですか？では、よろしくお願いします。それにあたっては、当然範囲の問題とか家具とは別の、家具本体じゃない事も工夫の余地が入ってくると思いますが、また、皆さん2月の時に模型を見ながらという事で、よろしくお願いします。8時半という約束なので、あと50分くらいかな。次に開館時間の検討です。

(館長) 今までの会議の中で色々9時-18時という意見が出ていたという風に思っております。それを想定して、図書館作りをしています。それが決定だとは思っていませんので、あらゆる利用者の方向性とかあるんじゃないかと思っています。よく、何時まで開いているんですかという意見を聞くんですが、何時から開いているんですかって言うのはあんまり聞かない。今一度ここで皆さんとそういうことも踏まえながら、意見交換して頂ければいいなと思います。ただ、職員の働く時間等がありますので、9時-18時を前提においてやりたいと思っています。だから、あらゆる所にとんでいくのではなくて、そこをベースにしながらずらしていくとか、ちょっと違う意見とか、そういう所から入っていくと入りやすいかなと思っています。

(委員長) それについてはご意見如何でしょうか？

- (委 員) 18時って事は9時間？
- (委員長) 仮にじゃあ20時までやるとすれば…。
- (館 長) でもそれが絶対とはいわない。
- (委員長) だから、選択肢はいっぱいあると思います。ご意見、どうですか。
- (委 員) 基本的に、北斎館周辺の店もそうですけど、冬場になると例えばあの近辺は非常に早く閉めるんですね。要は人がいないから。だからそれと同じように基本的に花井館長さんが言われたみたいに、ベースはこの考えでいて、ある意味あまり人が集まらない時間だったら縮めてもいいし、まずこの負担にならない範囲で例えば要望があったら夜、夏場だけ、サマータイムみたいな形で、3時間くらい延ばしてやってみてもいいし、断続的にやっていく方向性で考えてもいいと思います。最初から24時間図書館みたいな話もありますけど、僕はそれは現実的じゃないと思っているので。ただ、折角新しくなるのであれば、やっぱりこういう新しい発想みたいなのもあったほうがなんか創造性があるのかなと思うし。
- (委員長) ありがとうございます。
- (委 員) 今言われた事でだいぶいいと思いますが、例えば、日没から2時間はやるとかね。
- (委 員) 日没はどこで？
- (委 員) 日没は大体時間決まっているじゃないですか、季節によって。2時間から3時間。それによって始めるのも多少ずらしていくとか、そういう変わった事もあります。
- (委 員) 実際に今、子供たちの長期休みがありますよね。そういう時は多少朝早くから子供たちが来たいのではないかと思うんですね。だから、長期休みの時は朝、早目に開けるとか、そういう工夫をしていかなければと思いますね。
- (館 長) 去年、小平の図書館に行ってきたんですね。夏休みでした。やっぱり、開館時刻前に並んでいましたね、小学生が。10時オープンかな？僕はその10時前に来ていたんだけど、公園があったので、大人たちはその公園で持ってきた本読み直していたし、子供たちは一番になりたいから、並んでいるの。それが結構面白かった。
- (委 員) 僕は前も言った通り、今、電車通勤の人達の利用できる時間っていうのを言いたかったと思うんですけど、そうになると9時-18時、一日の時間が残業になってしまいますよね。だからそれを何とかやりくりしてできないかって思います。例えば夕方6時くらいに終わったら、昼間の交流だけになっちゃうし、だからそこら辺もどういう風に持っていくかですね。
- (委 員) 今5時で閉まってしまうのは早いんですけど、毎日6時まで開けていたり8時までって言うのは大変だと思いますので、一番利用しそうな曜日とか検討し

て、週に一回だけは 8 時くらいまで開けるとか、夏休みなどは早めに始めるとか、そういうのを検討していただけないかなと思います。

(委員) 私が大学職員で図書館職員だったときは、フレックスタイムが始められた頃で図書館でも職員も導入しようという時だったので、学生の試験期間中は延長しようという事でその時だけフレックスタイムを使って後から出勤した人は後から 8 時閉館で帰るとか、そういうようなやり方で勤務時間が重複しないようにしていた記憶があります。ただ、それがこの図書館に全部当てはまるかといったら、それはまた話し合いの余地があると思います。

(館長) じゃあ、できればいろんなご用件を聞きながら、また。やっぱり皆さん利用者の方が一番利用するから、それは僕らって言うよりは皆さんの意見が。

(参事) いいですか？今、開館時間という事でご意見頂いているんですが、開館時間と共に、前にもお話あったかと思うんですが、開館日数の関係で、先程ちょっとお話にありました、サラリーマンの皆さんなりって事になってくると、開館日数の問題が今まで議論した中では年間 300 日くらいの開館日数にしたいと言うのもございますんで、その点も含めてまた、随時議論頂ければという風に思います。

(委員長) これは、すぐ決めるという訳ではなく、開館してからも柔軟に事になると思いますが、開館・閉館時間って言うのは利用者の利便という意味で大変大事なことであり、同時に人件費も関係してきますので、もう少し共通の課題としてですね、いつも中に置いておくと言うことで、今日特に結論は出ませんが、そういうことでお願いします。続いて植栽について宜しいですか？植栽については、予算の関係で、今回は 7 月のオープンの時点では、まったく手をつけず…。参事、植栽についての見通しは大体？

(参事) 植栽については、平成 21 年度の予算が確定してございません。ただ、ご存知の通り本体のほうがかかなりの金額になっているんで、21 年度でも、館なりそういう所でかなり費用が必要かと思えます。そんな点では、植栽については住民の皆さんでどのような形になるかご議論頂きながら進めていったら。21 年度でやるのではなくて、みんなで 5 年かけて周りの森って言うようなものを考えていく…。

(委員長) どうもありがとうございます。特に今 21 年度じゃなくて、22 年度以降の予算になっていくと思うんですが、今、私の方に頂いている情報ですと、「和りんご」というのが小布施にあって、江戸時代からの存在が確認されていて、その研究を小林進さんが中心になってやっているんですが、それを元にした苗木を普及する動きもあるそうです。小布施特産というか、小布施特有の貴重な自然の文化財という事で、それを植えてはどうかという話が館長のほうに来ていて、とてもいい話ではないかと思えます。ほかにもし、植栽についてご希望やご意見

あれば、伺いたいんですが。

(委員長) 設計者に聞きたいんですが、植栽についての当初の考えは、どういう風になっていたんですか？

(八 木) 私たち、森の中の図書館という風に言っていたんですけれども、この森と言っていたときには赤松を想定していたんです。何故かと言いますと赤松って皆さんのほうがご存知かと思いますが、下の方は幹だけで枝がなくて上の方で枝葉になるんですよね。そうすると割と、図書館の中から見ると目線の高さにはグラウンドの方とか中が見通せて、でも上で日差しをカット、例えば南向いた時ですね、日差しをカットしてもらいたい時には、上のほうでカットすると。という意味で意外に合うのではないかなと思ってたんですね。で、例えば常緑樹で地面からすべてが覆われちゃうような、例えば垣根のようなものをぐるっと囲むと中は見通せないし、セキュリティ上もそれは違うだろうと。それは今でも思ってるんですが、そんな意味で赤松って提案をした所、割と皆さんから反対を受けまして。皆さん、赤松結構山にあるからですかね？葉っぱの掃除が大変だとか？

(委員) マツクイムシ。

(八 木) あ、マツクイムシですか。そういう事だったんですね。

(委員) 増えているんですよ。手入れがかかる。

(八 木) ああ、なるほど。という所で、議論している内に、情けないことに予算が無くなって今頓挫している状態なんですね。

(委員) 正直な話ね、やっぱり設計士の方が決める植栽と地元の園芸屋さんが決める植栽は違いまして、場合によっては木が駄目になっちゃうとか色々ありますので、地元の造園業者の方に意見を聞いてみるとか、例えば予算がないのであれば、よくでもお寺でもありますよね、何か出して「花井組」とかかって寄付をもらったり。

(八 木) 植樹をみんなで1本持ってくるとかね。

(委員) 植樹って、そういうのも充分あると思うので最初から予算が出るならそれに越したことはないんだろうけど、最悪駄目であっても、例えば、その何人かの融資で、植樹してくださいとか、そういうのも充分可能性としてはあるんじゃないかなと思うんです。そのプランとして例えば、どういうのを何本、どういう風に植えたいとか、ちょっとたたき台がないと、そういう案はちょっと出しにくいので、それは検討して頂きたいなと思います。

(八 木) はい。分かりました。でも、この関係者の中じゃ造園関係の方いらっやいませんよね？

(委員) 専門に近い人、今までいたんだけどね。樹種なんかの資料出してくれた。

(八 木) あ、そうですね。5枚くらいいっぱい出してくれた。まあ、これも一応提案を

こちらが作っておいた方がいいですね。

(委員) 例えば、10本15本って話になって、1本いくらみたいな話になったら、外観を出してもらおうと、逆に具体的に、例えばそういう募集もいいと思うし、何本か買い手がつくと思う。やっぱりこれから未来の為の図書館なので、地元の人々の声も反映して頂きながら、例えば地元の人からの木をやっぱそういう名前で、やっぱり神社と一緒にだと思うので、考えておいて頂きたいと思います。

(八木) はい。分かりました。

(委員) オーナー制にしようって運営委員会でもやってるの。

(委員) ちなみに、千曲側の土手の所の桜はお名前書いた木があるじゃない。あれどう感じるの？

(委員) あれはオーナー制になっているんですね。

(委員長) 運営委員会の方から途中経過報告してもらえますか。誰が担当ですか。

(委員) 運営委員会でそういう話になって事ですが、具体的には話はされていません。ただ、この辺で、オーナー制になったらどうかと言う話があります。どうでしょう。

(委員長) 他に植樹について。これは、今年度動きは取れないと思うんですが、そういった意味ではまだ議論決定しなくていいと思いますが、ひとつのアイデアとして頂いたのが、どんぐりプロジェクトと提案を頂いています。どんぐりと一口に言っても日本には何十種類もあるらしく、北海道から南の方まで、その土地にあるどんぐりの木ってあるらしいんですね。この辺だと〇〇とか、自然に自生しているものから、そのどんぐりを拾ってきて、それをポットに入れて30センチくらいの苗にしたものを、植えると。で、植えると5年くらいで森になる。ただ、植えたときには、たくさんどんぐりを植えるので、自ずと2年3年のうちには間引きっていうか、切らなくちゃいけない。その意味では、これが僕のとってなったときにはちょっと切ないものがあるんで、そこまでは個人のものにしないで、みんなで、この学年とか、この小学校みんな育てたどんぐりの木を5年かけて森にしました。っていうのをかなり広くやっている横浜の大学の先生がいて、その先生が本を沢山出して、「どんぐりプロジェクト」というプランで、各地でどんぐりを育てるお祭り、植樹祭とか住民参画。特に子供が参画できる、という事と、予算が限りなくゼロに近い。しかも早く森になる。また、自生している木ですから強い。というような事で、各地で実践しているようです。これについては私も以上の情報しかないんですけど、宮崎先生という、よく信濃新聞にも登場する植物経済学の先生です。その先生が全国各地で広めていらっしゃるプロジェクトです。そういう情報も予算がないということからすると、また、将来の子供のためについて言うのもすごく面白い話だと思いますので、また資料整えて提出しますので、ご検討ください。あ

と〇〇さんが桜の苗木をプレゼントするとか、花の会か桜の会かの人達が、そんな気持ちがあると伺っています。

では次に、選書方法についていいですか？選書委員会の話が前回出まして、選書をどうやってやっていくか。これは開館前から動き出さなければいけない事業だと思いますので、今週も話し合いたいと思いますが。

(館長) 前回の運営ビジョンの中でも少し出たんですが、図書館づくり学習会で牛山先生から、選書についてという講義があったんですけど、事例とすれば一般公募で決める。後は専門職の人達を何人か入れる。その専門職の人達は、どの専門なのか、お医者さんなのか、学校の先生なのか、教授なのか、保育士なのかとか沢山あると思うんですが、じゃあ、小布施はどうなのかな。今その事例を色々調べている途中ではあるんですが、逆にその、慌てなくちゃいけないけど、もう少し皆さんの意見を頂きながら、どういう所をって言う風に。

(委員長) これは何かご意見ありますか。

(委員) これは新図書館を作るための選書ですか？通年ではなく？

(館長) 通年に関わってくると僕は思っているんですが、それも逆に皆さんの議論の中にあってもいいと思っています。この勉強会をやったときは、お医者さんと、司書さんとか、そういう感じの人達を集めて、まずボランティア、こういう形でやってきたボランティアで入って、学校の司書さん、子育て関係者、お医者さん、PTA、中学生、高校生って所まで、後は学識者まで加えられていますけども、どんな人が入れば選書が豊かになるかという所を、みんなでもう少し意見を出し合えばいいのかなと思います。

(委員) 人数が多いほど予算がないと取り合いになっちゃうので、ほんのちょっとの数百万程度だったら、数人分で終わってしまうと思うのでそこら辺の規模もどういう風に考えていらっしゃるのでしょうか？

(館長) ここら辺をまず予算あるかも知れないですけど、まず、こういう本が欲しいって所から、後は予算を見ながら操作していくって方がいいんじゃないかなと僕は思うんですね。やっぱり最初から小さく小さく言うとはみ出せないで、大きいところから入っていかないと、本が選べないかなと思っています。予算もそうですけれど、図書館にこういうのをおいて欲しいというのがあればいいなあとも思います。多数決ではないですけど、やっぱり、ある程度、こういう図書館っていうイメージがあればいいなあと思いますけどね。

(委員長) 選書の決定というのは？

(館長) 長野市の図書館なんかは週1でやっている。ただ単に並べて、はいどうぞという会議かも知れないんですが、それはもうちょっとご意見いただいて、

(委員) はい。人選とかは兎も角として、どんなものかという事にして、万人向けの一般図書を、沢山選ぶのではなくて、特徴あるテーマを持ったものを充実させ

たら、より良いのかなっていう風に思います。だから、全国的にも、その周辺からね、その関係の本だったら小布施にみたいなの、多少専門性の持ったそういうものを、特色のあるものというか、小布施らしさって言うか、そういうものを選んでいただけたら良いんじゃないかなと思います。例えば、北斎と栗の町というんだから、北斎浮世絵に関するもの、浮世絵関係の資料だったら小布施だと。あるいは栗に関する資料だと小布施だっていう。もちろん花でもいいんですけど。そういったテーマを持って、選書をしていただければ。もちろん一般の本も充実させる必要があると思うんですけど、結局はキャパシティがないんじゃないですか。だから、そう思います。

(委員長) ご意見如何ですか？

(委員) よく分からないんですが、北斎館に、北斎の専門書とかありますよね。自分の子供の事を考えれば、やっぱり簡単な本は図書館に置いておいて欲しい。それでまあ、それ以外の難しい本に関してはそれは他にという形で、本の数だけが増える図書館にだけはする必要がないと思う。それで、先ほど話があったように、小布施の図書館として、一分野だけでもどっかそういう形で、存在価値があるような感じで。最初の本の選び方って非常に選ぶ方の感性が反映される部分だと思うので、方向性だけでも、どういう基準で選んでいくかっていう基本ラインだけでも、やっぱり今後継続的に本を選んでいくと思うんですが、それは是非考えてもらいたいですね。

(委員) 電算化されるとなると、集計あるいは目的に添ってやると今、仰ったんですけど、特色を強く出すことができる。独自性というか、そういう選定の専門家の人達がまとめたものをホームページとかブログとかそういうところに流しながら、あるいは一般的なもの、どこの図書館でも全国的にあるべきものは、たまたま小布施の場合は予算上、どうしてもないようなこともありうるし、そういう部分については、他の図書館でも見られるよという紹介がホームページ上にあれば、皆さん、来る前から分かるように、そんな体制で本が組み立てていけば、かなりその特色性、専門性ができてくる。だから、当初からすぐにスタートしなくても、なんかマークやなんか分かりませんが、そういうの、決定したりすると、選書の仕方も変わってくるような気がするんですけどね。

(館長) 電算化に関して言うと、今回の電算化で採用しているのは、ウェブ方式なんです、どんな図書があるって、皆さんどこからでも見られると思うんですよ。だから、その選書によって、皆さん仰ったようにカラーを出していく。電算化を使えばかなり面白くなっていくだろうなって。今回のシステムからはかなりできるだろうと思っているんです。

(委員長) 子供の絵本は？

(委員) 絵本の会では、絵本の会を月に一回開いていて、そこのメンバーから1人位

いれて頂きたいなと思います。

(委員長) 産業工業のほうからはどうですか？ご自分の事に限らず、事業やっている人の意見、何かありませんか？

(委員) あんまり詳しいことに関しては本はないんですよ。プラスチックの金型、その金型については独自でやっていきますから。だから、借りても意味ないんです。ちょっと時代遅れだったり、そういう状態なんで、あんまり…。

(館長) さっき、時間帯の関係で言うと、サラリーマンの方が利用するんだったらここだねって話が出ましたね。そうすると、じゃあ、サラリーマンの方がどんな選書をするかって言ったら、どういう本があるといいのかな。皆さんが自分の職業の中で、こういう本が揃うと…っていうのがあると思うんですよ。特色って言うのはなんとなく分かるんですけど、じゃあ、とリクエストに全部答えていくと、最初に仰ったようなね、金額との絡みもあるし、どういった本が並ぶのを想像されるかなって所も入ってくるかなと思うんです。それこそ、漫画とかも入ってくるんですよ。

(委員) あの、リクエストを取り入れてと言うことは、リクエストを制限すると言うことも考えてらっしゃる？

(館長) 僕が考えているというよりは、皆さんはどのような風なご意見ですかっていう所ですね、町の予算を使っているから。

(委員) 大変だと思いますけど、そうするとやっぱりルールを作っていかなきゃならないという事と、それは館長さんのお考えをもとに準備委員会がやるなり、選書がやるなりっていう、そういう、本当のルール作りをこの選書の方たちに考えていただく？

(館長) そうですね。それにも、その時だけ決めるんじゃないくて、折角、共同でやっているの、それには、前もっての意見が要りますよね。他の所に託すにも、こういう風にやると渡さない。ただ単にこれは小布施っぽいから、小布施これで良いじゃないかって選ぶのではなくて、折角、こういう会を一年くらいかけてやってきている訳ですから、会の中でこういう方向性が出てきたって事で渡して、選書委員会なりが出来たらやっていかないと、単なる、渡しましたって言うのは全然違うと思うんですよ。それで、100人くらいの意見を頂いた中でみんなで議論して行って、次のステップで渡したいと言うのが僕の夢です。

(委員) 今の図書館でささやかながら、北斎って訳にいかないから、妖怪に関する本はなるべく買おうってやってらっしゃるんですよ。やっぱり、そういうのは繋げて行って頂けたらと思います。

(委員) ミーハー的なんですけど、長野県出身の作家で、非常にいい本を書いてらっしゃる方が沢山います。僕も去年講師を呼ばなくちゃ行けないってことで、例えば長野県の北信出身でどんな人がいるのかなって調べると正直あんまり出てこ

なかったんですね。結局、猪瀬直樹さんと呼んだんですが、伊那の方で加島祥造さんとか、凄くいい本書いてる人がいっぱいいるんですけど、全然私も勉強不足で知らなくて。所謂、そういう長野県出身の現代作家の棚が意外とあるようでないのかなと思って、凄く身近に感じるので、もう少しそういうコーナーが出来るのであれば、検討していただければと。

(委員長) この図書館のあり方にも関わる選書の形の理念と言うか方向性の問題がひとつ出てきているのと、それを実際に運用する選書委員会のあり方、組織のそういった問題も含めて、その二つが大きなテーマとして出てきていると思います。最初の理念の部分というのがこの図書館そのものが4つの機能という事を言っていますけど、どの部分を伸ばしていくとか、重視するという事にも関わる問題ではあるので、やっぱり、今後も全体会の大事なテーマとしてやっていきたいんですが、そんな感じでどうでしょうか。では、セキュリティー対策について。実はセキュリティーにも色々ありますが、家具の配置に関してのセキュリティーという事を考えて、これは議論ということでもいいですかね。一応用意したテーマは、以上です。その他に移りますが、何かありますか。

(2) その他

(委員) 今のセキュリティーに関してなんですけれども、その配管の問題は兎も角として、例えばビデオ。そういう防犯カメラ、モニターとかそういうものがあれば。

(八木) 設計の方で言いますと、外警備って言うのは、まだ未発注なんですね。それで、それこそ、どういう仕組みにしたらいいのかって言うのは、ただ、工事の中で検討して、そこに持っていけるような配管だけはしていますが、今の所、これだという決定はまだしてないので、皆さんの意見を伺って…。

(館長) 最初の頃、ゲートの話で、ゲートはつけないと決めたように、こちらからこうじゃないかって言うよりは、こういう意見の中で、今も出た、防犯カメラ、今また小さくなっていますが、あるほうが良いとか悪いとかそういう所から始まって、あるんだったら何個か。どことどこか、そういうところもまた、議論の対象になってくるんじゃないかと思いますね。特に、その町作り委員会にも防犯がありますし、そういう所に逆に持って帰ってもいいって事もありますし、そこら辺が一番運営に対して検討して欲しいところかなと思います。

(参事) ちょっと防犯カメラについて調べてもらえますか？というのは、個人情報を含んで含んできます。果たして公共施設で防犯カメラをつけるというのはいいかどうかという事も出てくると思うんですよ。誰が何を見ているか、どういう情報を調べているかまで。館長も言っていますが、防犯の使い方そのものを、検討していかないと。議論していく前にちょっとその防犯として果たして公共施

設でもめたのかどうか含めて調べてみましょう。

(八 木) ちょっと正確に言いますと、さっき付けられるようになって考えていますと言いましたが、防犯カメラ的なものは考えていなかったんですね。閉館後の機械警備って言うのが出来るようには考えておりましたが、どこにつけるのかはセキュリティー会社を決めてから。なので、それにプラス防犯カメラをやるかやらないかって言うのは今後の…。

(館 長) はい。こちらで今参事の言った様に調べてみます。

(委 員) ちょっと良いですか。今結構須坂市とかでも大通りに防犯カメラを設置したり、プライバシーとセキュリティーって非常に考える所があつて。でも、デッドスペースがもし発生した時は、それについては例えば今、色々ありますよね。3日間くらいの情報が記録出来たり、たとえば解析度でそんな細かくなければ、本の内容は分からないし、実際問題、建物が建った上で、それはそうやって行く中で、管理者が、あそこら辺にはやっぱり不安があるって所とかそういう声を聞いた上でやっぱり検討すべき事なのかなって。本来は、デッドスペースって考えるとそんなものは付けちゃいけないっていうのもあるけど、今、時代が時代なので、そういうのはやっぱり管理者の責任において形を取っていただけらと思うんで、そういう中でも検討していけたらと思います。

(館 長) 図書館のこと、図書館って言うか、公共図書館の中で、個人情報って言うのはかなりシビアな所があつて、今仰ったそのとおりなんだけど、その前に、誰が何を読んで何を借りたって所まで、図書館ではかなりの個人情報を守らなくてはいけないし、だから、そこら辺も調べさせて頂いて、解析度もあるかもしれないし、一度お預かりしてもう一度投げかけていきたいなと思います。

(委 員) あと、セキュリティーの問題で、緊急時の対策もどうするか。具合が悪くなった時、あるいはなんかあつた時には困るけど、犯罪があつた時には、そこにどういう風な形で、まあ大声を出せばいいんですけど、出せなかった時に近くにあるボタンを押すようなシステムが必要になるかですね。そういうような、ボタンが良いのか何が良いのかわからないけれども、そういう対策もどうするのかって事も今後、考えてもいいかなと。

(館 長) そうですね、対策は考えないと。でもボタンはね。ただ、AEDって今ありますよね。AEDって言うのは僕の中では、何とかしたいって気持ちはあります。

図書館のこれから、そういう場合もありますのでそういう所まで考えて。実は、安心している訳ではないんですけど、位置的には役場と近いんで、そこら辺でというとまた棚に戻っちゃうんですけど、人が沢山、200人や300人が多くいて、まあ、一番最初の物になりますけどね、人為的な防犯もあるだろうし、それでまた、僕らがじっとしてないで館内をうろうろするってところでまず、防犯になると思います。沢山の色々な方法、機械もそうですけど、人の目って言

うのも見ていきたいなど。

(委員) 開館時間内でのお客さんの対応っていうのと、閉館してからでもお客さんは入ってくる可能性はあるよね。ポストなどを用意して返却とか、そういうこともあると思うんですけど、それも含めて、閉館時間に対する対応も一般の人にも共通したところはあったほうがいいと思うんですよ。特に金曜日とか、月末とか、定期的な休みがあったりして、意外とそこで預かったっていう可能性も実際体験した人多いんじゃないかな。

(館長) 図書はどうするのって皆さん議論したいって所がありますし、ポストなら職員がいて、閉まっているポストもあるだろうし、職員がいて夜中でもポストがどこにあるっていうんなパターンがあるんですね。逆に皆さん利用する立場から、議論していきたいなって本当に思っていますね。じゃあ、ポストはあるって風に捕らえていいんですかね？

(委員) その時に例えば18時で終わりだよと言ったときに、その図書館の中は閉館だけれども、こちらの役場のほうとの連携があるのかないのかって所も含めて、拡大的な解釈を加えながら、閉館時のセキュリティー。

(委員) その他で。今日、非常に多くの方が参加されているんですけど、図書館としての話し合いが多かったんですが、館長が話している中で、図書館というより情報発信センターという意味合いが非常に強いと聞いて、それでその設計についても、新しい形を目指したというか、要は小布施の駅に近い場所で色々お話ししながら、それプラス図書館の機能を持つという事で、この建設が決まったという経緯を聞いていました。実際問題、今活字離れも非常に進んでいます、インターネット上からも検索すれば、インターネットで情報つきの本とかも買えます。その情報発信という部分もしっかり考えた上で図書館の運営を考えていかないとインターネット以前の図書館を考えていると、新しい図書館との繋がりが希薄になってしまうと思うんです。今は、インターネットを離して物事を考えられないので、とにかく図書館から発信する情報、それは図書だけに限らず、そこら辺についてもう少し、議論を深めていかないと何のためにこれだけの場所をとったのかということになってしまうと思います。本来図書館だけの機能であれば、真四角ではっきりいって真四角である必要もないだろうし。是非、デザインのある建物であるから充分機能を果たしていくという、このデザインの建物を造るというのは、やっぱり、新しい情報発信プラス昔から大事にしていた部分の、そういう融合だと思っているので、是非そこを考えていただければ。私も是非考えていきたいと思っています。

(委員長) ありがとうございます。例えば情報発信という意味であれば、文化観光協会が産業グループにありますけど、その機能とどう連携していくのかなという事。お互いビジネスですけど、それが、もしかして職員がそっちに行くって事

も考え、何か連携ができるんじゃないかって事も含め、多くの観光客も来ると
思うし、文化観光協会としての役割も自ずと担っていくのではないかなと。そ
の辺りの議論もこれから横断的にしていきたいと思います。観光協会に限らず
ですが。

では大体、その他についてよろしいでしょうか？

次回 2 月の全体会についてはまた事務局からご連絡します。それと、前回提
案のあった古谷先生を囲む新年会という事で、日にちも 2 月の初旬くらいか
と思っていますけど、古谷先生のご都合も聞きながら、また。

では、どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

6. 閉 会